

ます。龍勢祭は、戸外の行事のため特に天候が気になるところですが、今年は天候にも恵まれました。また今年も、前年度会長の山川明美会員が友人を招待し、会員や家族と一緒に龍勢を鑑賞しました。招待された方々も存分に楽しめたとのことでした。

龍勢祭は年々賑やかになっています。龍勢祭が賑やかになるように、皆野長瀬ロータリークラブも会員がもっと増えて欲しいものです。



彩の国 21 世紀郷土かるた大会

11月8日（日）、皆野小学校体育館において、皆野町子ども会連絡協議会（黒沢伸二郎会長）主催の「第29回彩の国 21 世紀郷土かるた大会」が開催されました。皆野長瀬ロータリークラブは、長年、この大会を後援しています。具体的には、成績優秀者に授与するためのメダルをクラブから贈呈しています。この日、幹事と会員がメダルの贈呈式と表彰式に立ち会いました。

受付時間の 8:30 には大会役員や大勢の児童・父母が集まっていました。大会は、高学年の部（団体競技と個人競技）と低学年の部（個人競技）から成り、団体競技は5チームのリーグ戦、個人競技は4組（高学年）と7組（低学年）に分かれてリーグ戦で競った後に上位者がトーナメント戦で競うものです。試合を見ていると、読み手が数語発声した

だけで競技者の手が動き、すぐに決着します。競技かるたの激しい熱気が感じられました。

近年、児童数の減少に伴い大会参加者も減少しているようです。しかし、練習の成果を大会で発揮することで、子ども達の感動を強化することになり、成長に大いに貢献します。ロータリークラブの後援は、このような大会を継続させ盛り上げるために、今後とも必要なものと考えています。



日本のロータリーの歩み

わが国最初のロータリークラブは、1920（大正9）年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本全体でのクラブ数は2,294、会員数88,904人（2011年8月末現在）となっています。

国際ロータリー第2570地区 第4グループ

皆野・長瀬ロータリークラブ

〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬 1446 養浩亭内

例会日：毎木曜日 12:30～13:30

例会場：長瀬レクリエーションホテル養浩亭

Tel&Fax:0494-66-4134

E-Mail:minanaga@chichibu.ne.jp

区域限界：皆野町、長瀬町、秩父市吉田・黒谷・太田